

第6回

海岸公園（岡田地区）にて育樹会を開催しました！



▶「植える」から「育てる」へ！

6月24日（日）、海岸公園岡田地区（H28年3月植樹）エリアで第6回育樹会を開催しました。夏の日差しと浜風の中、ご参加いただいた65名の方とともに苗木まわりの除草作業や苗木の本数計測・身長測定を行いました。

昨年の育樹会から苗木の本数が30本ほど減っていましたが、身長は大きいもので昨年から50cmほど伸び、1.6mに成長している木もありました。

第2部の身近な植物の魅力発見ゲームでは、第1部で除草した草を使い、班対抗で名前を当てて魅力を探すゲームを行いました。参加された皆様からは「草の種類の多さに驚いた」「植物の魅力を子どもたちが話すとき、大人とは違う視点で見ているんだなとあらためて感じ、おもしろかった」などの感想をいただきました。

▶参加者の声（アンケートより）

- ・地道な努力の継続にあることを学びました。
- ・通常みる木がどれだけ長い年月が経っているのか知るきっかけになりました。
- ・前回植樹会に参加しました。ずいぶん大きくなったような気がしました。草はだいのびてしまっ
てびっくりしました。
- ・草をとるのが大変でした。楽しかったです。 ・トチノキの説明が面白かったです。
- ・植樹の時と公園の雰囲気が大きく変わっているなと思いました。木たちがしっかり育っていてよかったです。



第7回植樹会を開催しました！



6月2日、平成30年度ふるさとの杜再生プロジェクト植樹会を海岸防災林（荒浜字南官林地区）で、（一社）森の防潮堤協会との合同で開催しました。

夏に向かうような晴天と海風の中、500名の方にご参加いただき盛大な会となりました。海側に近い仙台市エリアには抵抗性クロマツを、内陸側の（一社）森の防潮堤協会エリアには広葉樹を混植し、あわせて約7000本の樹木を植樹しました。

エリアごとに仙台市緑の活動団体や、仙台ふるさとの杜再生プロジェクト連絡会議の会員の皆様に「植樹リーダー」をお願いし、震災以前の松林の写真や植えた苗木が森になるまでの成長イメージの紹介と、植え方の指導をしていただきました。参加された皆様からは「30年後植えた苗木が大きくなるのが楽しみ」「これからもできる限り参加して苗木の成長を見守りたい」などの感想をいただきました。

編集・発行：ふるさとの杜再生プロジェクト連絡会議事務局

▶特定非営利活動法人都市デザインワークス
TEL:022-264-2405
mail:info@udworks.net

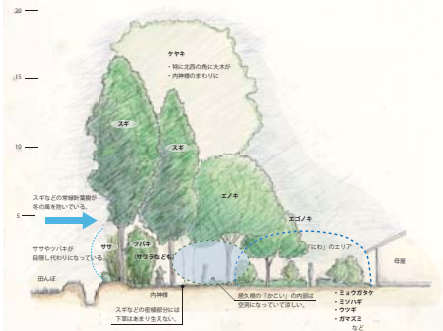
▶仙台市百年の杜推進課
TEL:022-214-8389
mail:ken010241@city.sendai.jp

特集 居久根（いぐね）の保全・再生について

本プロジェクトでは、「仙台東部地域のみどり」の再生を目指しており、海岸林や海岸公園のみどりの他に、暮らしに沿った固有のみどりとして屋敷林「居久根（いぐね）」の保全・再生にも各会員が取り組んでいます。

往時の集落生活に不可欠だった居久根。東日本大震災以降、今後の仙台沿岸部の集落の暮らしに沿った新たな居久根の形も必要です。

無理なく育てられるような、暮らしの中で必要な緑の再生のお手伝いができればと考えています。植樹や育樹の機会等に是非、ご参加下さい。



◀一般的な「居久根」の断面

居久根は、防風・防砂の役割の他に、枯れ葉や落枝が燃料として利用されるなど、暮らしに必要な不可欠なものでした。断面で見ると、幅10~15mくらいの緑の帯になっています。

低木も含めて多彩な樹種が植えられ、それぞれの役目を果たしています。

仙台沿岸部の思い出の風景



▲高橋親夫氏撮影・提供（平成13年）
宮城野区南蒲生小田切付近にて

2001年頃、仙台市宮城野区南蒲生地区で撮影された風景です。数軒の「居久根（いぐね）」が連なって、田んぼに浮かぶ森のように見えます。

5月はじめ、まだ田植え前の土と畦、様々な樹種の混交林の姿が爽やかに映ります。

● 新浜地区の取り組み ~みんなの広場~



新浜地区では、震災後の仮設集会所跡地を「みんなの広場」として、植樹活動や清掃活動を行っています。

視察や研修で訪れる団体が除草作業を行うなど、地域外の方々との交流の場にもなっています。



ここに、熊本県の自治体からパーゴラとベンチの寄贈があり、まさに「広場」となりました。（写真下）

この他、地区内の各住宅での植樹活動等も行われています。

● 南蒲生地区の取り組み ~みんなの畑~



南蒲生地区では、2017年度より「みんなの畑」プロジェクトがスタートしました。

町内会集会所の駐車場として借りた土地の残地が、土地所有者の厚意で、みんなで育てる畑に。

子供会や老人クラブなど町内の様々なコミュニティが集える農園を目指します。（写真上：収穫の様子）

同畑の敷地には、目隠しや防風のための植樹も行っています。（写真下）



高木が生い茂るこれまでの「居久根」を個人で所有・管理を継続するのは大変…。集落の暮らしや住まいも変わって、居久根に求められる役割も変化しています。「自然の豊かさを暮らしに取り入れてきた先人の知恵」が「居久根」というカタチになったと捉え、これからの暮らしに沿った新しい居久根をみんなの手でつくり、次の世代へつないでいく事が必要ではないかと考えます。

▲暮らしに沿った居久根の再生のイメージ
（仙台平野「みんなの居久根」プロジェクトのパンフレットより一部引用）

● イグネスクール



都市デザインワークスでは、居久根づくりや身近なみどりの再生のための小さな学校として、「イグネスクール」を毎年秋に開催しています。

植え育てるための知識やコツ、困りごとな

などを、造園のプロに現場で解説いただきます。

土づくりの基礎知識から、希望に適した樹種選び、剪定の仕方まで、授業内容は様々です。